

## 「総合こども園」創設 決定

政府は待機児童を解消するために、幼稚園と保育所の機能を一体化させた施設、「総合こども園」を創設することを柱とした新たな子育て支援策を決定し、必要な法案を消費税率を引き上げるための法案と一緒に国会に提出することを確認しました。

政府は 2 日、すべての閣僚が出席して少子化社会対策会議を開き、若い世代に対する社会保障の機能を強化するため、新たな子育て支援策を決定しました。支援策は、待機児童の解消に向けて、幼稚園と保育所の機能を一体化させた施設、「総合こども園」を創設することを柱とし、この施設を増やすため株式会社や NPO の参入を認めるとしています。そして、「総合こども園」には公的な給付も行い、教育と保育の質を担保することで、現在、全国におよそ 2 万 3000 か所ある保育所の大半を 3 年程度かけて「総合こども園」に移行するとともに、1 万 3000 か所以上ある幼稚園も、順次、「総合こども園」へ移行させていくとしています。

会議の中で、野田総理大臣は「この新システムは、民主党を中心とする政権の真骨頂で社会保障改革の柱だ。税制改革関連法案と同時提出になるので、その準備もしっかりしてほしい。この新システムの意義を国民に広く PR し、法案を通すための総力を結集してほしい」と指示し、必要な法案を消費増税法案と一緒に今月末までに国会に提出し、成立を期す考えを示しました。

政府は今回の支援策を社会保障と税の一体改革の一環と位置づけており、消費税率の 10%への引き上げが実現した場合、増収分のうち年に 7000 億円程度を充てる方針です。政府はこうした子育て支援策によって少子化に歯止めをかけ、経済成長につなげたい考えです。

NHK <http://www3.nhk.or.jp/news/html/20120302/k10013428321000.html>

保育園は厚生省管轄、幼稚園は文科省管轄、そしてこの「総合こども園」は総務省管轄となるらしい。幼保一体化構想は 30 年も昔から議論されてきた話だが、そうそう簡単に実現しない。消費税アップとセットでは、今回もまたおそらく廃案となるだろう。

この「幼保一体化」が難しいのは、待機児童問題が発生しているのは都会であるという事だ。保育園（託児所）→子ども園にするには、園庭が必要だ。そんな土地はどこにある？って話だ。

また幼稚園→子ども園にするためには、0 歳児～2 歳児ルームを新たに作り、職員を大幅に増加させる必要がある。何せ 0 歳児は 3 人に 1 人、1 歳児は 6 人に 1 人の保育士配置が必須なのだ。20 人～30 人の幼児クラスとは全く別物のシステムだ。

それは何とかなったとしても、元々給食を提供していない幼稚園には、給食設備を新たに作る必要がある。また沐浴施設も必要だ。この「水廻り」って言うのが一番カネが掛かる部分であり、更にスペースも食うものなのだ。

乳児には調乳も必要だし、給食と言ったって昼にだけ出せば良いだけではなく、間食も含めての離乳食が必要なわけだ。だから学校給食とは、全然違うものなのだ。

言うのは勝手だが、都会にそれを作るスペースがあるか？莫大なカネが掛かるのをどうするのか？ そう簡単な話じゃない。

認可保育園への入園出来るか、出来ないかの合否発表は区によって違うが、大体 2 月半ばに出るわけだ。今年一番待機児童が多いのは、1 歳児だ。0 歳児の母親には産休もあるだろうし、夏場過ぎからは待機になる可能性も高いが、4 月の時点ではそんなに待機児童はいない。また 3

歳以上の待機児というのは滅多にない。

よって一番の解決策は、幼稚園は昼過ぎたら子どもを帰すのではなく、**延長保育を充実**させれば良い。そこに補助金を出せばよい話だろう。

待機の受け皿となる保育園は、巨大なモノを作るよりは、**0歳～2歳児の小規模施設を沢山**するのが解決への近道だ。赤ちゃんは、どうせ遠くまでは連れてゆけないのだし、多少狭かろうが駅近に作るのがベストだろう。そのための補助金を充実させるべきで、**3歳になったら園庭のある認可保育園か、あるいは幼稚園に移る**のが、子どものためにもベストなんじゃないの？

待機児童という都会の問題を、全国に広げて「**総合こども園**」なんていうのは、全くの無駄遣いだろう。やっぱ、政治家っていう奴らはアホだな。

〔貴金属〕

今週の金の値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
2月27日	¥4,629	36	¥4,637	
2月28日	¥4,600	-29	¥4,608	-29
2月29日	¥4,620	20	¥4,630	22
3月1日	¥4,480	-140	¥4,488	-142
3月2日	¥4,509	29	¥4,519	31

金相場は、先週号においては『来週の高値水準では打診売りをしてみたい。おそらく調整安が出る場合は為替の反転であろうが、現状の相対力指数ではさすがに買われ過ぎとの判断である』とコメントした。

今週の相場展開は、週明け27日に発会した2月限が4,654円の高値でスタートした後に緩み始め、1日には暴落。4,452円まで200円強の下げを演じ、その後押し目買いに4,500円台まで戻しての終了となった。

○東京金日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

3,808円（12/30）→4,654円（2/27）まで846円幅の上昇を演じた相場は、やっと202円の調整を入れた。

先週号にて「相対力指数は79ポイントまで来ており、かなりの異常事態。目先だとしても天井が付けば少なくとも400円～500円押すだろう事は確実で、当方は週明け2月限発会から売り狙いである」とコメントしたわけだが、400円～500円はまだ下げているものの、とりあえずは成功である。

ただし下げる時にはおそらく為替の円高で…と考えていたものはそうならず、バーナンキの議会証言で「QE3への言及がなかった」とのNY市場での急落が要因の下げであった。

野村監督の語録に「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負け無し」というのがあるわけだが、相場にも言える話だな。

さて80ポイントまで上がった相対力指数は、…中略…

為替に関しては巻末にチャートを載せているわけだが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年4月	¥3,970	4月26日	¥4,751	9月7日	¥3,807	12月30日	¥4,509
2012年6月	¥3,909	6月28日	¥4,754	9月7日	¥3,810	12月30日	¥4,510
2012年8月	¥4,506	8月29日	¥4,754	9月7日	¥3,808	12月30日	¥4,516
2012年10月	¥4,229	10月27日	¥4,652	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,516
2012年12月	¥4,037	12月26日	¥4,654	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,518
2012年2月	¥4,654	2月27日	¥4,654	2月27日	¥4,452	3月1日	¥4,519

○NY金日足（3/1現在）

…削除済み…

週末 3/2 の NY 市場は、前日比 12.4 ドル安の 1709.8 ドル。NY 市場での相対力指数は前日で 50 ポイント割れまで低下しており、70 ポイントから大きく崩れたわけだ。

それでも円安が更に進行して 81 円台後半となっているため、国内換算では 15 時半比 10 円安に留まっている。

直近の高値は 1792.7 ドル (2/28) であり、29 日は 1688.4 ドルまで一気に 100 ドル超の下落を演じ、今は 1700 ドル辺りでの動きという事になる。

今週の東京市場の動きを見てもわかるとおり、…中略…

CFTC 発表の 2/28 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 3/2 現在の ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、指数調整の下げは完了した。今後、押し目買いか、戻り売りかは為替相場次第であるが、ポジションはあまり多く持たずに、どっちが来ても良いように備えたい。

今週のプラチナの値動き

	4 月限(当限)	前日比	2 月限(先限)	前日比
2 月 27 日	¥4,445	16	¥4,470	
2 月 28 日	¥4,422	-23	¥4,445	-25
2 月 29 日	¥4,455	33	¥4,481	36
3 月 1 日	¥4,424	-31	¥4,446	-35
3 月 2 日	¥4,481	57	¥4,503	57

プラチナ相場は、先週号においては『反転下落するとすれば、為替の円高反転が起きた時であろう。しかし基本的には、金とのサヤを詰めてゆくトレンドには変化なしと思われるため、突っ込んだところは買いが良いと考える』とコメントした。

今週の相場展開は、週明け 27 日に発会した 2 月限が 4,535 円の高値でスタートした後に緩み始め、下落。しかし金とは違い、安値は 4,379 円 (2/28) まで 150 円強の下げに留まって、その後はまた 4,500 円台に戻しての終了である。

○東京プラチナ日足 (週末は昼過ぎまでの価格です)

…削除済み…

3,376 円 (12/30) →4,535 円 (2/27) まで 1,159 円幅の上昇を演じた相場は、4,379 円まで 156 円の下落を演じたが、すぐに戻るなど金よりも明らかに強い。

結局、今回の金の下げも為替で来たものではない…というのが要因だろう。為替で来るなら貴金属に限らず、全商品が一斉に暴落したはずなのだから。

相対力指数は 80 ポイントからは下落したが、…中略…

一代の動きは以下のとおり。

### 東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年4月	¥4,826	4月26日	¥4,921	5月6日	¥3,363	12月30日	¥4,481
2012年6月	¥4,445	6月28日	¥4,770	8月23日	¥3,370	12月30日	¥4,480
2012年8月	¥4,581	8月29日	¥4,726	9月7日	¥3,380	12月30日	¥4,483
2012年10月	¥3,918	10月27日	¥4,518	2月27日	¥3,375	12月30日	¥4,490
2012年12月	¥3,605	12月26日	¥4,524	2月27日	¥3,376	12月30日	¥4,500
2012年2月	¥4,535	2月27日	¥4,535	2月27日	¥4,379	2月28日	¥4,503

○白金－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,503円（プラチナ）－4,519円（金）＝－16円。

結果的に12/8の－547円が逆ザヤのピークだったわけだ。もうほぼ変わらない水準まで戻してきたのだから。

ただし、このサヤチャートでの相対力指数も72ポイント台まで上昇。いずれはプラチナの方が金よりも高い時代に戻るのだろうが、一度は良い水準まで来たと思われる。

結論として当方の相場観は、金売り・プラチナ買いのポジションは利食いの時期であろう。よってプラチナの買いも途転売り転換で、ストップロスを新高値更新に設定して、目先は調整期待の売りであろうと読む。

〔穀物〕

今週のコーンの値動き

	5月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
2月27日	¥25,840	40	¥24,120	30
2月28日	¥25,900	60	¥23,960	-160
2月29日	¥26,200	300	¥24,230	270
3月1日	¥26,300	100	¥24,280	50
3月2日	¥26,370	70	¥24,480	200

まずはコーンから…

先週号においては『ファンダメンタルズでは買い目はない。怖いのは円安進行と循環買いであるが、それが逆の目になれば一転して暴落だろう。戻り売り方針に再び転換である』とコメントした。

今週の相場展開は、シカゴ市場の堅調さと円安に引っ張られて水準を切り上げ、週末は24,480円と高値引け。僅かずつだが、**新高値を更新中**である。

○東京コーン日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

大底である21,110円（11/28）→24,440円（3/2）まで3,330円の上げとなって来た。2月崩しどころか、2月に上昇した相場である。

作付はまだまだこれからだが、**今年は作付面積の増加と期末在庫の増加**を予想されており、コーン自体のファンダメンタルズに買い目は無い。また今は全く話題にも上らないが、**海上運賃も安値に位置**している。

そんな中でも水準を徐々に切り上げているのは、国内市場は円安であるため、シカゴ市場は原油高などからの循環買いである。

東京コーンの相対力指数も70ポイントに乗せ、…中略…

週末のシカゴ市場でも換算では310円高と上げているゆえ、週明けにその程度上昇したら、ぼちぼち打診売りをしてみようかと考えている次第。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年5月	¥27,970	4月18日	¥29,360	4月21日	¥22,000	11月28日	¥26,370
2012年7月	¥28,180	6月16日	¥28,560	8月30日	¥22,110	12月15日	¥26,460
2012年9月	¥27,440	8月16日	¥28,550	9月13日	¥21,930	11月28日	¥26,730
2012年11月	¥24,400	10月17日	¥24,750	11月10日	¥21,110	1月1日	¥24,400
2013年1月	¥21,790	12月16日	¥24,230	3月2日	¥21,650	12月16日	¥24,220
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥24,480	3月2日	¥23,060	2月16日	¥24,480

○シカゴコーン日足（3/1現在）

…削除済み…

週末3/2のシカゴ市場は、中心限月の3月限で前日比5.25セント高の659.00セント。国内換算では15時半比310円高である。

アウトックフォーラムで米農務省は、今年の生産高を 142 億 7000 万 Bu と予測し、期末在庫も 16 億 1600 万 Bu に倍増する予測を出している。

…中略…

CFTC 発表の 2/28 現在のファンドのポジションは…中略…

結論として当方の相場観は、週明けの高値から打診売り。本格的な売りは天候相場が始まってからだろうが、今年のコーン相場に本格的な上昇相場は無いとの考えである。

今週の大豆の値動き

	4 月限(当限)	前日比	2 月限(先限)	前日比
2 月 27 日	¥34,010	-190	¥43,100	540
2 月 28 日	¥34,650	640	¥43,510	410
2 月 29 日	¥35,170	520	¥43,690	180
3 月 1 日	¥35,660	490	¥43,620	-70
3 月 2 日	¥35,900	240	¥44,070	450

続いて一般大豆です…

先週号においては『ファンダメンタルズではコーンよりも強い状況だ。押し目買い、吹き値売りの両面作戦の継続を続けたい』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には 44,200 円 (3/2) まで上昇。シカゴ高&円安で上昇に弾みが付いた相場は、一段高に舞い上がった。

○ 東京大豆日足 (週末は昼過ぎまでの価格です)

…削除済み…

大底である 36,410 円 (12/15) →44,200 円 (3/2) までの上昇幅は 7,790 円に及び、週末のシカゴも高かったので 8,000 円超の上げは必至の情勢。

相対力指数は 82 ポイント辺りまで上昇で、70 ポイント乗せから本格的に上昇を開始したのは石油などと一緒。70 ポイントに乗せたのは 4 万円に回復した頃であり、そこから先物引継ぎ足では 4,000 円上がっているわけだから…。

もっともこれはサヤマジックであり、実際は 2,000 円～3,000 円の上げに留まっている。ぼちぼち、買われ過ぎのとがめが出るかな…。

週明けの高値は、軽く打診売りしてみたい。10 月の高値も抜くわけだから、相場は青天井の様相になるわけだが、相対力指数が 80 ポイント超では、仮に 5 万円を目指すとしたり、売りが上がれば一度は急落で利食い出来るだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年4月	¥50,170	4月18日	¥51,180	4月21日	¥31,200	12月16日	¥35,900
2012年6月	¥49,820	6月16日	¥49,910	9月5日	¥33,600	12月16日	¥37,610
2012年8月	¥47,450	8月16日	¥50,110	9月5日	¥35,610	12月15日	¥40,400
2012年10月	¥44,250	10月17日	¥44,250	10月17日	¥36,410	12月15日	¥42,000
2012年12月	¥37,500	12月16日	¥43,210	3月2日	¥36,830	12月16日	¥43,060
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥44,200	3月2日	¥41,050	2月16日	¥44,070

○シカゴ大豆日足 (3/1 現在)

…削除済み…

週末3/1のシカゴ市場は、3月限で11.50セント高の1328.25セント。円安でもあるため、東京市場15時半比では610円高である。

シカゴも相対力指数は80ポイントに到達した辺りであり、過熱感が出ている。

先のアウトルックフォーラムで米農務省は、大豆の生産高を32億5000万Bu、期末在庫を2億500万Buと発表。ファンダメンタルズはコーンよりは良いわけだが、高値でレーショニングが起これば期末在庫は増加するはずだ。

CFTC発表の2/28/現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、週明けの高値からは打診売り。仮にまだ高い所があるにしても、このまま一直線に上がるというのは無理だろう。調整局面期待の売り上がり方針である。

[ゴム]

今週のゴムの値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
2月27日	320.9	-2.1	336.9	-3.0
2月28日	318.4	-2.5	334.9	-2.0
2月29日	319.4	1.0	335.9	1.0
3月1日	322.0	2.6	339.2	3.3
3月2日	324.5	2.5	341.9	2.7

先週号においては『商品市場への買い人気はゴム市場にも影響し、一気に340円台へ駆け上がったわけで、完全に曲がり屋になった状況につき、敗軍の将は兵を語らずである。次の展開が読めるまで、ノーコメントだ』とコメントした。

今週の相場展開は、週明け27日に344.4円の高値を記録したのちに大きく下げたが、崩れきれずに週末には再び340円台を回復。未だに強い相場展開が続いている。

○東京ゴム日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

年明けの258.7円(1/5)→344.4円(2/24)までの上昇幅は、85.71円に拡大した。

今週も崩れそうで崩れない相場であり、競合商品である合成ゴム価格が原油相場の高騰で上がり続けている情勢では、天然ゴムも簡単に下がらない情勢になっているようだ。

元々の上昇のきっかけとなったタイの市場介入は3月に入ったので行われるのかどうかだが、価格はすでに目標とする120パーツからかけ離れているわけではないので、実施されるかどうかは不透明か。

ただし行われれば、この間に大きく円安に進んでしまったため、換算は360円ほどまで切り上がる計算になるという。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年3月	318.7	9月27日	327.9	10月17日	247.5	11月11日	324.5
2012年4月	292.5	10月26日	330.6	2月27日	248.6	11月11日	325.4
2012年5月	266.0	11月25日	335.0	2月27日	256.9	1月5日	330.4
2012年6月	279.6	12月22日	339.5	2月27日	258.7	1月5日	335.4
2012年7月	324.0	1月26日	342.0	2月27日	307.5	1月31日	338.9
2012年8月	340.7	2月24日	344.4	2月27日	339.6	2月24日	341.9

当先のサヤは、3月限324.5円～8月限341.9円と17.4円の順ザヤ。順ザヤ幅は若干拡大した。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、2/10現在で223トン減の14,011トン。2旬連続の減少である。

上海ゴム在庫は、2/24現在で1297トン減の3万339トン。34000トン台まで増加したところから、ずっと減少傾向である。

上海ゴム価格は、29,000 元台で動意無し。完全に横ばいの状態になっている。

結論として当方の相場観は、チャートではまだ下がりぬ姿である。しかし急伸した場合はまた押しそうで、しばらくは方向感を探る動きとなるだろう。

## 〔石油製品〕

### 今週の原油の値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
2月27日	¥57,700	120	¥60,650	1010
2月28日	¥57,500	-200	¥59,980	-670
2月29日	¥57,500	0	¥58,950	-1030
	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
3月1日	¥60,950	320	¥58,990	
3月2日	¥62,800	1850	¥60,370	1380

まずは原油から…

先週号においては『円安の調整が来れば急落するのは必至。よって買いは増やせないし、目先は調整期待である。しかし調整完了後は、更なる高値に舞い上がっても不思議ではなく、まずは63,000円台、最終的には7万円相場と読む』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は109ドル台まで上昇し、押したあともまた高値追いをした。だが週末はさすがに下げ、106ドル台まで値を消して終了である。

東京原油は、週明けに61,290円まで上昇した後に58,000円台まで一時3,000円近く値を消したが、週末にまた大きく切り返して6万円台を回復。

○ NY原油日足 (3/1 現在)

…削除済み…

週末3/2のNY市場は、前日比2.14ドル安の106.70ドルで終了。安値は105.80ドルまでであった。

国内換算では円安もあり、15時半比670円安である。

この日は先導する他油種も下がり、ロンドンブレントは123ドル台、ドバイ原油は120ドル台で終わっている。

異常な相対力指数は80ポイント近いところから67ポイント台まで下げ、週末のポイントは判らぬが60ポイントそこそこか。

ゴールドマン・サックスが、北海ブレントで夏場には140ドル目標とぶち上げている中では、この下げは指数調整の下げなのであろうが、NY原油で102ドル程度までなら下げても不思議ではない。そこが買い場になるのだろう。

なお2/28現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足 (週末は昼過ぎまでの価格です)

…削除済み…

「53,000円と来れば吹き上がっても不思議ではない」としていた相場は、61,290円(2/27)まで上昇である。

原油高だけではなく円安もあって強い相場なのは確かだが、相対力指数が87ポイント台まで上がり、異常値を示して3,000円近い調整が来たわけだ。

この調整で70ポイント辺りまでは低下したが、週末の戻りで74ポイントまでまた上昇。70ポイントを割ると、一度は50ポイント辺りまで下がるのが自然。

価格で言うならば、2月だけでも8,000円上がった相場である。半値押しでの4,000円程度の下げは、買い場を提供する押しの許容範囲だろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

#### 東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年2月	¥52,500	9月1日	¥57,960	2月27日	¥44,550	10月5日	¥57,500
2012年3月	¥45,770	10月3日	¥62,900	3月2日	¥44,390	10月5日	¥62,800
2012年4月	¥50,630	11月1日	¥62,320	3月2日	¥48,130	12月19日	¥62,280
2012年5月	¥51,720	12月1日	¥62,000	2月27日	¥47,910	12月19日	¥61,610
2012年6月	¥51,590	1月4日	¥61,650	2月27日	¥51,100	1月4日	¥61,220
2012年7月	¥51,290	2月1日	¥61,290	2月27日	¥51,040	2月3日	¥60,740
2012年8月	¥59,290	3月1日	¥60,580	3月2日	¥58,740	3月2日	¥60,370

結論として当方の相場観は、3,000円近い調整安が来たが、あつという間に戻した。しかしもう一度調整は来ると見て、慎重な押し目買いを狙うのがベターであろう。大相場であるゆえ、動きは激しいはずで、簡単に2,000円、3,000円はぶれる相場であろう。

#### 今週のガソリンの値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
2月27日	¥76,570	1120	¥74,270	
2月28日	¥75,750	-820	¥73,410	-860
2月29日	¥75,380	-370	¥72,280	-1130
3月1日	¥75,930	550	¥72,720	440
3月2日	¥77,620	1690	¥74,360	1640

続いてガソリンです…先週号においては『指数は異常値を示しており、近日中に調整安はあるだろう。しかし大勢では買いのままだろうし、春～夏場に向けての大相場はまだ続くだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明け27日に75,000円台で発会した相場が29日までに3,000円以上の調整安。その後、相場は再び切り返し、74,000円台で終了である。

○東京ガソリン日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

チャートでは完全に上放れした後、2月だけで1万円は舞い上がった展開である。

下の一代の推移を見れば一目瞭然だが、逆ザヤなので期近は切り返した週末も一代高値の更新である。

相対力指数は90ポイントまで接近し、70ポイントを割り込む指数調整を経てから、再び74ポイント台へ。

しかし週明けは安そうなので（夜間取引ですでに下げているが）、もう一度3,000円程度の調整安はあって自然だ。

ただし、原油相場が140ドル目標とか言われる中では、いずれは10万円相場になるのかもしれない、イラン問題の解決&円安の終了&経済危機の再勃発がなければ、売りトレンドにはならないと考えたほうが良いだろう。

買い玉の利食いはOKだが、新規売りは相変わらず怖い相場だ。

一代の推移は、以下のとおり。

#### 東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年4月	¥58,900	9月26日	¥77,770	3月2日	¥57,260	10月5日	¥77,620
2012年5月	¥62,380	10月26日	¥77,440	3月2日	¥59,350	11月22日	¥77,370
2012年6月	¥61,020	11月28日	¥76,890	3月2日	¥60,510	12月19日	¥76,870
2012年7月	¥61,750	12月26日	¥76,100	2月27日	¥62,500	12月30日	¥76,000
2012年8月	¥66,800	1月26日	¥75,560	2月27日	¥64,920	2月3日	¥75,190
2012年9月	¥75,030	2月27日	¥75,130	2月27日	¥71,700	3月1日	¥74,360

全限一代高値の更新である。

3/2 現在の業者間転売価格は、…中略…

2/25 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、もう一度3,000円程度の押しは出てもおかしくないし、出た方が相場としては判りやすい。しかし大勢では買いのままであろうし、春～夏場に掛けての大相場は継続するだろう。

#### 今週の灯油の値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
2月27日	¥73,260	700	¥72,540	
2月28日	¥72,020	-1240	¥71,600	-940
2月29日	¥71,670	-350	¥70,730	-870
3月1日	¥71,670	0	¥71,100	370
3月2日	¥72,650	980	¥72,290	1190

最後に灯油です…先週号においては『指数調整の押しが入ったら、すかさず買う相場であろう。今年の春は、石油製品の需給はかなり厳しくなると考えていた方が良さそうである』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けには73,450円の高値で9月きりが発会。そこで目先天井を付けた相場は3,000円強の調整安を入れたが、週末は反騰。72,000円台まで戻しての終了である。

○東京灯油日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

2月だけでも1万1,000円駆け上がった相場は、相対力指数も90ポイントに接近して指数調整の下落。しかし70ポイントは割り込まず、週末は75ポイント台での終了である。

3連続陰線で調整を入れた相場だが、もうちょっと調整が欲しいところ。再度4,000円も下げれば、だいぶ買いやすい価格になるのでは？

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年4月	¥59,490	9月26日	¥73,870	2月27日	¥57,250	10月5日	¥72,650
2012年5月	¥61,740	10月26日	¥73,000	2月27日	¥59,010	12月19日	¥71,750
2012年6月	¥62,400	11月28日	¥72,760	2月27日	¥58,700	12月19日	¥71,560
2012年7月	¥61,750	12月26日	¥72,640	2月27日	¥50,660	12月30日	¥71,580
2012年8月	¥63,840	1月26日	¥72,850	2月27日	¥61,870	2月3日	¥71,770
2012年9月	¥73,400	2月27日	¥73,450	2月27日	¥70,040	3月1日	¥72,290

3/2 現在の業者間転売価格は、…中略…

2/25 現在の灯油在庫は、…中略…

関連商品であるジェット燃料は昨年同期に比べて 19.4 万 k1 も少なく、石油製品在庫の需給は厳しくなっている。

結論として当方の相場観は、指数調整の下げは出たが、まだ若干足りない印象だ。今後は乱高下しながら値固めし、その後にもた上昇トレンドに入るのではないかと予測する。

## [為替]

○ ドル/円相場日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

81.67 円（2/27）は陰線引けだったが、その前日には相対力指数 80 ポイントオーバーの数値を記録。

その後の 2 日間の陰線で 70 ポイントまで指数調整をするものの、週末の NY タイムでは円安が更に進行し、**81.85 円を記録**している。

チャートだけの判断だが、おそらく何度か逆行現象を出してから、一度本格的な円高調整を迎えるのでは？

ピークはいつもの 311 かもしれない…。この日は日曜だけれども。

○ ユーロ/円相場日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

対ユーロでも円安は同様の軌跡を描いているが、週末の NY タイムでは 107 円台。2/27 の円安は超えていない。

そろそろユーロ高も、化けの皮が剥がれる頃なのかも…。

○ ユーロ/ドル相場日足（週末は昼過ぎまでの価格です）

…削除済み…

ユーロ/ドルも、トレンドはドル安・ユーロ高に転換しているが、転換した途端に頭が重くなっているチャートである。

もしもドル高/ユーロ安に再び転換するなら、ファンドが買いすぎているドル建て商品は本格的な調整を迎えるかも…。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

（当たり前ですが念のため）

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス [info@higenaka.com](mailto:info@higenaka.com)